

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214304		
法人名	有限会社 つなぎの里(うさぎ)		
事業所名	グループホーム つなぎの里(うさぎ)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繫字麻生道端87-3		
自己評価作成日	令和4年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、季節の花や自然に囲まれた環境豊かな場所である。現在、コロナ禍により、地域の方や家族との関わりが減少している中、できる事を見つけ、室内行事を多くし、季節の雰囲気を楽しんでいただけよう工夫しながら、日々過ごしている。
また、入居者が、毎日過ごしやすく、穏やかで楽しい里と思えるよう、入居者や家族、地域の意見を取り入れながら、より良いホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小高い丘にあり、居室は明るく、自然豊かで素晴らしい景色が眺められる。コロナ禍で出来なくなった事も多いが、少しづつ元の生活に近づけるよう努めている。外出できない分ホーム内で楽しめる行事を取り入れ、入居者だけではなく共にスタッフも参加することで、仲の良い笑いの絶えない関係性が築かれている。
スタッフ間とはとても風通しが良く、定着率が高い。
入居者の居住年数も長くなり、介護度が高い方や車いすの方も増えてきているが、スタッフ二人で介助をする等工夫して対応している。また看護師の配置も有り看取りの実績も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・“人とのつながりを大切にし、穏やかで、楽しい里でありたい”という理念を掲げ、日々取り組んでいる。基本方針として、“自由・絆・笑顔”を目指し、職員一同努めている。	事業所の基本理念は、リビングや事務所、職員のトイレ等、目につく所に掲示されている。毎年4月に職員全員で理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍により、状況が以前と違い、地域とのつながりが減っているのが現状である。	以前は、地域交流会を開催したり、地域の行事に参加したりと日常的に交流が図られていたが、感染症防止の為、現在は地域との付き合いはほとんど無い状態である。	地域との交流までは難しくても、つながりを意識することに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	・地域住民からの問い合わせがあった際は、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、定期的に行っているが、コロナ禍により、会議は書面にて行い、質問等あれば連絡いただくよう、記載している。	コロナ禍の為、運営推進会議の内容を書面にまとめ、報告している事が確認できた。	報告を行っている事は確認できたが、質問等活発な意見交換が難しくなっている為、意見を聞く方法等を検討する事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村担当者や他施設の方と連絡を密に取り、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	以前は運営推進会議にも市の職員が参加し情報交換が行われていた。現在は運営推進会議を書面で行っているため直接的な交流はないが、必要に応じて都度電話等で助言や情報提供してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・代表者および職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、身体拘束廃止委員会を設立し、身体拘束を行わないケアを話し合い、内部研修などを行って、職員で取り組むよう努めている。	身体拘束廃止委員会は毎月開催している。また、3ヶ月に1回内部研修を行い、身体拘束及び虐待をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業について、現在利用している方はいないが、必要な方には活用できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居者・家族の方々へは利用するにあたり、不安や疑問点を確認し、十分な説明を行い、理解や納得をしていただける説明をするよう、努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	・意見や要望を訴えやすいよう、家族には年に1回アンケートの依頼をしている。 また、入居者とは日常会話や行動の中から思いや希望を汲み取るようにしている。	家族アンケートは集計し、職員や家族にも結果を報告している。 また、入居者からは日常のさりげない会話の中から思いや希望を汲み取っている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	・ミーティングにて各自、意見を出し合ったり、その都度職員の意見や提案を管理者から代表へ報告している。	ミーティングも書面開催としており、以前よりも意見を吸い上げにくい状況であることを考慮し、朝夕の申し送りの時間を利用してスタッフの話を聞くようにしている。 また、前回の外部評価の結果を参考にし、会議録の書式がさらに分かりやすいものとなるよう、新たに作成した。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍により、同業者との交流する機会が減ってしまったが、参加できる際は状況を判断しながら参加し、相互訪問などの活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と話し合いの場を設け、過ごし方や要望を確認することで、入所時に安心して生活できるよう心掛けている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査時、話しやすい雰囲気を作る事で、より良い関係を作れるよう心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器拭きをしてもらうことで役割ができています。また同じテーブルを囲み、会話を楽しめるように心掛けている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染予防の為、面会は玄関で短時間にさせてもらっている。主に電話対応となっている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	長年通っていた病院に受診できるよう支援している。希望があればスタッフが間に入り、電話を引き継いでいる。	コロナ禍により、外出や面会を制限したことで関係の継続が難しくなっているため、面会を再開できるようにしたいと考えている。	面会を再開したいと考えているので、その実現に期待する。
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に居室に戻られてしまう入居者に対しては、食事や水分補給などで時間ごとに声かけ、見守りを行っている。会話が弾むようにスタッフが間に入っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した場合も、必要な場合、各機関と連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、意思や感情を受け止められるよう心掛けている。また、伝える事が困難な方には、身振りや動作などで把握できるよう努めている。	会話が難しくても、積極的に話しかけ、入居者の思いの表出を促している。その状況についてはスタッフ間で共有し、支援方法について都度検討している。新しい情報は記録に残し、申し送っている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	編み物や興味のある雑誌などを読んでいただいたりと、入居者の今までの好みの物を把握し、継続できるように支援している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	入居者や家族の要望を聞き、本人の状態や行動を把握し、スタッフ全体で、カンファレンスでの検討、作成を行っている。	家族の要望や意向については、ケアマネジャーや管理者が中心となって電話や手紙で確認を行っているほか、スタッフが入居者本人についての状態等を記録にまとめていく。それらを基に月1回のミーティング後にカンファレンスを開催し、スタッフ間の意見をまとめ、作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や計画実施の結果をもとに、申し送りやカンファレンスで情報を共有している。改善すべきことを話し合い、介護計画書へ活かすよう努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍により、難しい状態であるが、避難訓練、消防や医療機関とも連絡を取れる体制作りは行っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、スタッフや家族が、本人の病状や状態を共有できるようにしている。かかりつけ医との連絡を密にし、適切な受診や指示が受けられるようにしている。	元々のかかりつけ医に職員が付き添い受診している。歩行困難で受診が大変になった場合も、そのままのかかりつけ医に往診してもらっている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々観察に努め、気付いた事は職場内の看護師に報告、相談している。また往診や受診で適切な指示を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、かかりつけ医、情報交換や相談に努めている。また入院中の容体を、電話連絡にて把握できるようにしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備え、家族やかかりつけ医と話し合い、カンファレンスにて最善のケアや対応ができるよう話し合いを重ねている。	ホームには看護師も配置されており、かかりつけ医の協力も有り、看取りの実績もある。看取りの時期には家族が泊まったりも出来、入居者や家族の希望に沿ったケアが行われている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにてマニュアルを参考に勉強会を行い、知識や実践力の向上に努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。またミーティングにて反省点、改善点などを話し合っている。	消防署立ち合いのもと、火災想定にて避難訓練が行われている。実際に、消防団代表と、施設代表が連絡を取り合える等、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人として尊重し、尊厳が保たれるよう声かけ、対応をしている。また、施設内研修にて質の向上に取り組んでいる。	声掛けの仕方等を、職員間で話し合ったり、年に1回はプライバシーについての内部研修を行っている。実地指導でプライバシーに配慮するようアドバイスをもらい、ホワイトボードやファイル等名前のついているものは全て、暖簾で見えないように工夫している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用しており、本人の要望を取り入れている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの能力を考慮し、一緒に食事作り、盛り付け、片づけを行っている。	献立は職員が交代で作成し、敷地内にある同法人のショートステイの栄養士に確認をもらっている。ミキサー食や刻み食、普通食、また病気に合わせて量の調整などもきちんと対応している。コロナ禍で外食ができない代わりに、行事食を増やし楽しんでいる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々の食べる量、水分量を把握し、状態に合わせた形態で提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、介助で口腔ケアを行っている。義歯使用の方は、夜間、義歯洗浄剤を使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄状況、リズムを把握し、チェック表を確認しながら誘導、介助などを行っている。	一人ひとりの排泄時間や、量、回数をチェックし、声掛け、誘導、介助と個々の状態に合わせた支援を行っている。トイレ内に時計が設置されており、より正確な排泄パターンの把握に繋がっている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、ファイバーの利用、また散歩、ラジオ体操への働きかけで便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の健康状態に合わせて、声掛け、介助で行っている。入浴剤の使用、湯加減、順番を考慮している。	入浴日は設定せず、2～3日に1回は入浴ができるように午前午後共に対応、支援している。 入浴が楽しめるよう、入浴剤は沢山の種類を準備し使用している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、日中の活動をメインにし、夜間スムーズに入眠、安眠できるよう努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、処方時についてくる説明写真を参考に、各自確認している。スタッフ間で常に情報交換し、確認し合える状況を作っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の聞き取りや日々の生活での会話の中から、本人が好みそうな事、また嫌いな事などをスタッフが共有し、声掛けを行ったり、物品を提供するなどしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、ホーム周辺にとどめているが、玄関での短時間での面会等を行っている。	施設の敷地は広く、自然が多いため、散歩を楽しむ事ができている。 受診後のドライブ以外、外出が難しい状況であるが、受診時以外でもドライブを再開予定との事。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理し、買い物などで本人の希望があれば、スタッフが代行などし、支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や天井などに、時節に合わせた飾りで、季節を感じてもらおうようにしている。また、エアコンも直接風が当たらないようにしたり、換気を行ったり、室温調整し居心地よく過ごせるよう配慮に努めている。	壁面には行事の写真を沢山掲示したり、季節を感じられるよう装飾されていたり、一年の移り変わりを大切にしていることがうかがえる。 室温や湿度にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関へソファを置き、一人になれる空間を作っている。また、気の合った方同士、隣に座ってもらったりしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、使い慣れた物を置いている。	ベッドやタンス、エアコンが整備されている。テレビのほか、ぬいぐるみ等本人の馴染の物を持ち込んでいる。危険物やお金以外は、特に制限はしていない。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、洗面所などにイラストや文字にて、自分で行けるよう工夫している。また、廊下やトイレには手すりが設置されており、安全が確保されている。		